

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN 2013-2014 WEEKLY REPORT



名古屋名南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル
 ■会長 / 白藤 憲雄 ■幹事 / 本多 利郎 ■会報・雑誌・広報委員長 / 安藤 修
 ■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号
 TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail info@meinan-rotary.com

2013-14年度 国際ロータリー会長 ロンD.バートン

第1078回

2014年1月28日(火) 晴 第26回

～ロータリー理解推進月間～

斉唱 それでこそロータリー
 出席 会員55名(出席率算入人数50名)
 出席 42名 出席率84.00%
 前々回補填率94.10%(1月14日分)
 ゲスト 参議院議員 大塚 耕平さん
 体験例会 長瀬電気工業株式会社
 取締役 属 ゆみ子さん

1月の誕生日

1日 浅井 浩さん 1日 榊原 和美さん
 2日 牧野 好弘さん 3日 佐々木元彦さん
 14日 田中 一雄さん 22日 三島多恵子さん

配偶者誕生日

2日 加藤 尚子さん 2日 牧野恵美子さん
 4日 細井 篤子さん 27日 大平 剛さん

1月の結婚記念日

17日 加藤 宜之さん 18日 中村 勝さん

会長あいさつ

会長 白藤 憲雄さん

皆さま、こんばんは。体験例会の属さん、ようこそおいでくださいました。ありがとうございます。来週は入会式を予定しております。本日は参議院議員の大塚先生に卓話をさせていただきます。公務でお忙しい中ありがとうございます。先週、細井さんを中心として親睦活動家族委員会の方、また副会長の榊原さん、三島さん、幹事の本多さん、そして事務局の中村さん、水野さん、皆さま色々ありがとうございました。滞りなく4RC合同例会が終わりホッとしております。後は東南RCとの2RC合同例会が残っておりますがその時はまた皆さま宜しくお願いします。寒さの峠は過ぎたと思いますが、油断禁物ですので気を付けてください。



- 2月4日の例会前に理事会がございます。17時30分より17階の「パイン」で行います。お忘れのないようにお願いします。
- 海外出張届けが2名の方より出ております。杉山隆秀さん、2月8日から2月19日まで行き先はアメリカで目的はその他です。鈴木清詞さん、2月17日から2月23日まで行き先は中国で目的は商用です。

ニコボックス

◆大塚耕平さんのお話楽しみにしています。

浅井 浩さん 白藤 憲雄さん 坂本 晃さん
 児島 徳和さん 加藤 英敏さん 鈴井 一博さん
 猪村 美之さん 川村 繁生さん 山本 郁矢さん
 田中 一雄さん 伊藤 圭一さん 中村 勝さん
 出田真太郎さん 佐々木元彦さん 牧野 好弘さん
 本多 利郎さん 有川 英敏さん 宮崎 良一さん
 杉山 隆秀さん 中西 芳子さん 木村 猛さん
 久米 伸治さん 吉木 邦男さん 鈴木 清詞さん
 田子 充浩さん 細井 俊男さん 江松 央統さん
 新原 尚さん 川瀬 悟さん 太田 敦士さん
 川辺 清次さん 佐々木 暢さん 三浦 隆さん
 長尾 浅吉さん 大平 明子さん 森田敏二三さん
 東山 直史さん 坂田 信子さん 犬飼りさ枝さん
 三島多恵子さん 大橋さなえさん

本日合計 49,000円 累計 817,000円

米山功労者感謝状授与

■米山記念奨学委員会 委員長 猪村 美之さん
 (米山功労者)
 新原 尚さん



幹事報告

幹事 本多 利郎さん

外部卓話

児島 徳和さん

皆さま、こんばんは。昨年度も来ていただきましたが、参議院議員の大塚先生にご無理を言って時間を取っていただきました。昨年もそうでしたが、先程こちらに着きこれが終わったらまた新幹線でお戻りになると言う非常に多忙な中お出でくださっていただいております。今日のお話の内容は、元金融担当副大臣であり厚生労働副大臣という経験を踏まえた中でいづれ来るであろう大地震に備える役に立つお話です。今日、お席に資料を2点程用意させていただきましたが、大塚先生の資料と「史実の在る過去の大きい地震」と言うのは私が作った資料ですので大塚先生の資料を中心にお話させていただきます。それでは大塚先生、宜しくお願い致します。

■参議院議員

大塚 耕平さん

こんばんは。ご紹介いただきました大塚耕平です。昨年に続いてお招きいただきまして本当にありがとうございます。

今日は児島さんから、南海トラフ三連動地震への対策、BCP/BCMについてお話するようにとのご指示をいただきましたので、そのようにさせていただきます。



BCP/BCMについてはご存知の方も多いと思いますが、これに関するセミナーを2週間前に開催させていただきました。ご参会の皆様の中にもご協力、ご出席いただきました方もいらっしゃると思います。ありがとうございました。

セミナーは3時間でしたので、その内容を30分に短縮してお話すると、大事な部分を割愛しなくてはならず、若干分かりにくいかもしれませんが、出来る限り端的にお話させていただきます。よろしくお願ひ致します。

BCP/BCMは、Business continuity planning（事業継続計画）とBusiness continuity management（事業継続マネジメント）という意味です。これらを単に災害対策のためと捉えるとBCP/BCMの本質を見失う事になりますので、先にBCP/BCMとは何かをお話させていただきます。

ロータリーの皆様の中には経営者も沢山いらっしゃると思います。経営リスクを常に意識し、「どのように会社を守っていくか」「従業員、顧客を守っていくか」と言うことに日々ご尽力いただいている訳ですが、経営リスクとは、例えば資材をどのように調達するか、生産管理・品質異常は大丈夫か、在庫は大丈夫か、財務は適正か等々、様々な着眼点があります。

BCP/BCMは、東日本大震災の後、特にサプライチェーンが分断されて企業の生産活動が停滞したという事態に端を発し、今度地震が発生した際にはどのようにしたらいいかという議論から、一層意識されるようになりました。

しかし、例えば生産ラインが止まる、顧客へのサービス機能が停止する、企業の資金繰りがつかな

くなるという事態は、地震や台風等の災害が原因でなくても起こりうる訳です。

90年代のバブル崩壊後の難局を乗り越えられた皆様は記憶に新しいことと思いますが、金融緩和から金融引締に転じた政策によって大変資金繰りが厳しい時代を迎えました。つまり、経営リスクは決して災害だけによって起こるものだけではないということです。

最近ではERM（Enterprise Risk Management）という概念も普及しつつありますが、総合的なERMの中の一部が危機管理であり、そのさらに一部がBCP/BCMとも言えます。

BCP/BCMは、危機管理の中でも、とりわけ重大な事態に際し、特に重要な機能を維持するために予め対応しておくことです。

もちろん、経営が危機に瀕する事態は起きないこと、あるいは起きないようにすることができればベストです。しかし、いくら予防しても災害は発生します。会社の努力では防止できません。

これを原因と結果という関係で捉えると、英語では原因に当たる事態をincident、結果に当たる状況をaccidentと言うことができます。

地震が起きて経営が頓挫する企業もあれば、経営が維持される企業もある訳です。つまり、原因が発生しても、結果は異なるということです。BCP/BCMは、どのような原因が生じて、重要な企業活動が維持できるような対応、準備のことを指します。

最近では、経済産業省や中小企業庁が中小企業のBCP/BCMのマニュアル（ガイドライン）を作っていますので、ご興味のある方は中小企業庁のHPにアクセスしていただきたいと思います。

ここで問題になるのは、よくある勘違いです。例えば、社長が若い社員に「地震対策をやっておいてくれ」と簡単に言うようなケースです。地震を抑止することはできません。地震に限らず、何かの原因によって生じる経営危機に対する準備がBCP/BCMです。

BCP/BCMは原因を意識した上流対策ではなく、その結果生じる事態に対処する中下流対策です。

地震対策というのは地震に対することだけではなく、どのような事態が生じるかを想定して対策を行うことが危機管理です。

BCPを作ったことで満足してしまい、いざ現実に災害等が発生した時に思ったように機能しないということはよくあります。何か起こってから改善しているようでは困ります。

頭の体操や、不断のレベルアップを図ることがBCMです。

様々なISOを取得している企業も多いと思いますが、BCP/BCMにもISOの基準が発効しました。

元々日本の危機管理は、その時のそれぞれの立場の方々の責任感や瞬発力で対応するケースが多い一方、欧米は良い意味でマニュアル化しています。BCP/BCMにも早くから取り組んでいます。

一昨年発効したISO22301の策定には、イギリス、アメリカ、オーストラリア、シンガポール、イスラエル等が早くから関与していました。日本も2005年から経済産業省がガイドラインを導入し、ISO22301の議論に参画し、2012年のISO22301発効に寄与しました。

そもそも、9.11やロンドン爆弾テロに遭遇した米国や英国が、社会活動が停止するような甚大なテロ等に対応する意味での社会セキュリティ対策としてBCP/BCMを検討し始めました。

一方、自然災害の多い日本等の国々では、災害を中心としたBCP/BCMを検討しており、ISOの事務局でも議論は平行線でした。

しかし、やがてアメリカもハリケーンカトリーナを経験したほか、スマトラ島沖地震等で世界的にも災害対策にも関心が集まり、欧米系とその他の双方が歩み寄り、ISO22301の発効に至りました。

今後、海外の企業と取引をされる際に「御社はISO22301の認証を受けていますか」と聞かれるケースも出てくると思います。認証を受けているか否かで、ビジネスに影響が出てくる場面もあるかもしれません。

ボーダレスな企業活動や商業活動をしていくうえで、「他国の競合企業よりもより安全で

安心である」ことを証明しなくてはならないので、ISOで様々なスタンダードを獲得しているということは、水戸黄門の印籠のような役割は果たしてくれるかもしれません。

顧客満足のISO9000から環境配慮のISO14001等々、様々なISOに対応してきた企業もあると思いますが、最近では危機管理のISO22301に至っているということです。

ISO22301を取得した日本企業はまだ数十社ですから、取得していなくても今すぐ何か困るということではありません。但し、ISOそのものがビジネス化していることはご理解いただいた方がよいと思います。

危機管理、BCP/BCMに関する以上の情報を踏まえたうえで、次に南海トラフ三連動地震についてお話しします。

我々の世代がまだ若手、中堅と言われた時代は東海地震が話題になっていましたが、いつ頃からか、南海トラフ三連動地震が注目されるようになりました。

太平洋沿岸の震源域はA～EとF、Gに分かれていてABの領域が南海地震、CDが東南海地震、Eが東海地震です。

それぞれの震源域の直近の発生時期をみると、東海地震が一番過去に起きているので、したがって東海地震が一番逼迫していると言われていました。

そうした中で3.11が発生しました。その時、私は厚生労働省の副大臣室にいましたが、

実に揺れが長かったです。後にわかったのは、2時46分に最初の地震が起き、47分、48分と三連動で地震が起きた訳です。

その経験から、地震学者や防災関係者の間で、南海トラフでも三連動地震が起きるリスクを真剣に考えるようになったと言えます。

南海トラフ三連動地震の記録を見ると、1854年12月23日に東海地震が起きています。それからわずか十数時間後の12月24日に南海地震が発生。この時は、東南海地震が起きることはなかったものの、それから1年後にGの領域で江戸地震が起き、この3つが「安政の三大地震」と言われています。

3.11のように、まさしく三連動で同時に起きた地震が1707年の宝永地震です。そこから数えると、既に307年経過しています。そのため南海トラフ三連動地震が改めて関心の的となり、「今までの想定で

は甘い」という議論が続いています。

私も3.11直後に宮古へ行きましたが、現場の様子は言葉になりません。津波の到達高度は43mでした。従来の被害想定の高さは10～15mでしたので、それではダメだという認識が一気に広がり、一連の見直しがそれ以降ずっと行われています。

堤防建設などのハード面の対応も重要ですが、より重要なのはソフト面、被災時の対処の仕方です。対処の仕方、心構えを間違えなければ、上手く対処できるケースもあります。

3.11の際に、釜石東中学や大船渡小学校で奇跡の避難が成功した一方、大川小学校や関上地区の悲劇も発生しました。

「想定に囚われない・最善を尽くす・率先して避難する・備えあれば憂いなし」ということが実行できた事例がある一方、その真逆である「検討不備・時間浪費・意思決定の誤り・災害バイアス」という事態に陥った事例もありました。

人間の行動は心理要因に影響されます。行動認知学では、正常化バイアス、愛他行動、同調バイアスという3つが災害バイアスと言われており、東日本大震災では実際にそれが起きてしまった事例がいくつも指摘されています。

何の根拠もなく「多分大丈夫だろう」と思うことが行動認知的な人間の心理バイアスです。

同じように、企業活動においても「多分大丈夫だろう」と考えていると、本質的な意味でのBCP/BCMにはなりません。

日常業務・準備・思考プロセスはどれも大事ですが、一番大事なのは思考プロセスです。これがしっかりしている人・企業は、磐石の準備ができます。

最近、日本に入ってきている欧米のコンサルタント会社は思考方法を日本の企業やクライアントに売っているのです。

日本人や日本社会は相対的に正常化バイアスが強いと言われており、論理的に物事を考えることが相対的に不得手と言われていています。だからこそ、コンサルタント会社が論理的な思考方法や方法論をセールスするのです。

物事は多くは二次元で考えられていますが、三次元で考えるだけで全然違う分析結果が出ます。見方を少し変えるだけで新たな事が見えてきます。非日常的な事態でどういう思考回路を持つかが緊急事態の対応になります。

最後に政策リスクです。ここに色々書いてありますが財政赤字や金利などで、「金利なんて急に上がるわけがない」「10年間赤字でやってきたのだから大丈夫」と言う気持ちが正常化バイアスです。

政策リスクに対しても、根拠のない安心感を抱くことなく、経営面に与える影響を見据えていただくことが、政策リスクに対するBCP/BCMです。

雑駁な話で恐縮でしたが、BCP/BCMとは何か、東日本大震災が示すBCP/BCMの要諦、政策リスクの認識が第一歩とすることについて、私が何をスピーチさせていただいたのか若干でも記憶に残れば幸いです。

以上、私の卓話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

第1080回例会(2月18日)のご案内

創立記念例会

於：河文「水鏡の間」18：30～